

雪谷小学校 原せつ子 先生の作品

大地震！起きた後ではもう遅い

地震の知識と心の構えは持っていますか

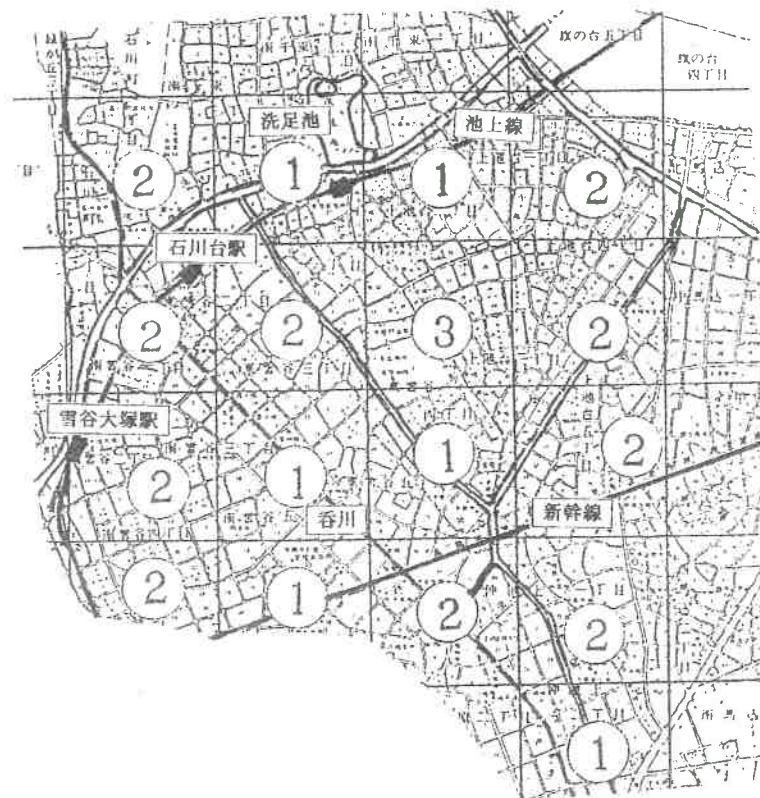
↑大田区の30%が焼失！

＝東京都の地震災害想定では＝

大地震が起きた場合、大田区では35件の火災が発生し、消防活動により25件については消火できるとしています。消火できない10件のうち7件が耐火建築物等により延焼しない火災で、残り3件が延焼し、地震発生から48時間後には大田区の32.1%が焼失すると想定しています。

雪谷地区火災危険度図

地震による出火の起こりやすさと、それによって建物がどれぐらい燃えるかを計算して、火災の危険性の度合いを評価したものです。



雪谷地区では、危険度1～3と他の地区から比べると危険度は低いですが、住宅の密集・自動車の氾濫・都市ガス等地震が起きた時には火災が予想されます。

過去の大地震の際、二次災害で多くの人命が失われました。従ってグラツときたら火の始末、火が出たらすばやく消火を心がけましょう。

↑家庭における初期消火

このたびの北海道南西沖地震は、改めて地震にともなう火災と津波の恐ろしさを教えられました。もし首都圏にこの程度の地震が発生した場合の被害は、甚大なものと思われます。まずこの地区は津波の心配はないとしても、稠密な人口と木造建築物の多いことを思うと、家屋の倒壊よりも、火災の発生を一番に防がなければならないと思います。

各家庭について日頃こうした場合を想定し、万一出火したときの初期消火の準備と心構えについて、37戸程の主婦の方に実情と意見を聞いてみました。

1) 防火対策

- イ) 家庭用消火器がある 33戸
- ロ) 汲みおき水をしますか(風呂、キッチン) 36戸

2) 避難準備

- イ) 非常食、救急医薬品、懐中電灯等非常持出品を用意している 8戸
- 品目的に揃っていても、一括して持出しの準備をしていない家庭が多かったです。

また、独身者や若い人は大部分の人が“憂いあれど備えなし”でした。

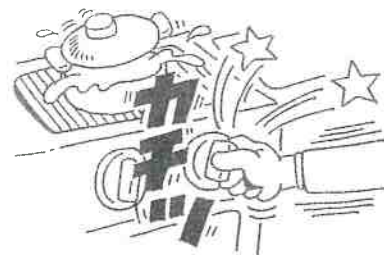
↑備えあれば憂い無し

東雪自治会 家族8人の家庭

初期消火用の消火器、米、缶詰などの食料、調味料、水、薬箱、肌着、懐中電灯、携帯ラジオ、ライターなどとともに先祖の戒名を用意していざという時に持ち出せるようにしている。

小池自治会 65才の主婦

初期消火に備え消火器を、非常持出としてリュックサックに、救急薬品、ラジオ、懐中電灯、ローソク、タオル、軍手、ロープ、乾パン、飲料水、防火用座布団等を入れている。災害時には、火元を止めて、非常持出、貴重品を持って近所の公園に一時集合し後は状況によって多摩川避難場所へ行く。



↑地震、防災 町の人に聞きました

- ・家族会議を行ない、集合場所や子供はどうか相談している。また、ひとり暮らしの高齢者への心くばり等、隣近所と話し合い、いざという時協力しあえるように仲良くしてしている。
- ・定められている避難場所(多摩川河川敷)へ到着するまでの避難路のことが心配です。最悪の場合、定められた避難場所へ安全に行くことが出来るのか不安であるため、役所・専門家の説明を要望します。
- ・関東大震災では本所、深川の人が多くの家財を持って避難場所に集まりそれに飛火し、大勢の人が犠牲になったことは尊い教訓である。避難するときは身軽な方がよい。“家財などより命は大切です”
- ・災害に対して貴方はどのような備えをしていますか?
20、30、40代は何の準備もしていない
50代 懐中電灯・消火器・非常食等を準備している
70代 火が一番恐いのでガスの元栓を締める。非常食を準備しています
80代 水・炭・豆炭・非常食を準備しています
上記の様に若い方々は、あまり重要に考えていないようです。



↑雪谷地区九自治会の防災対策

九自治会は、それぞれに防災活動を行なっています。地域が細長く全長2キロにも及んでいる自治会では、町内を三分割して独立した活動が出来るように編成しています。また多くの自治会で、ミニポンプ、消火器、救急箱等を備え、消火隊制服、防火服を持っている自治会もあり、又地域消防団を結成、災害救助、消防署への現場活動の支援(交通整理等諸雑務を含む)と24時間体制で日常の準備と訓練を行なっています。

自分の住む町の地理を覚え、どこが危険か、安全な避難場所はどこかを日頃から知っておきましょう。自分一人だけの力では、どうすることも出来ないこともあります。みなで協力し我が町、我が命を守りましょう。体験して見なければ、消火器の使い方もわかりません。自治会では防災訓練を行なっています。みなさん進んで参加しましょう。

ひとゆれですぐ行動 火の始末